
国内フードバンクの課題と 福岡県フードバンク協議会への期待

一般社団法人全国フードバンク推進協議会
事務局長 米山広明

2019年8月30日（金）

目次

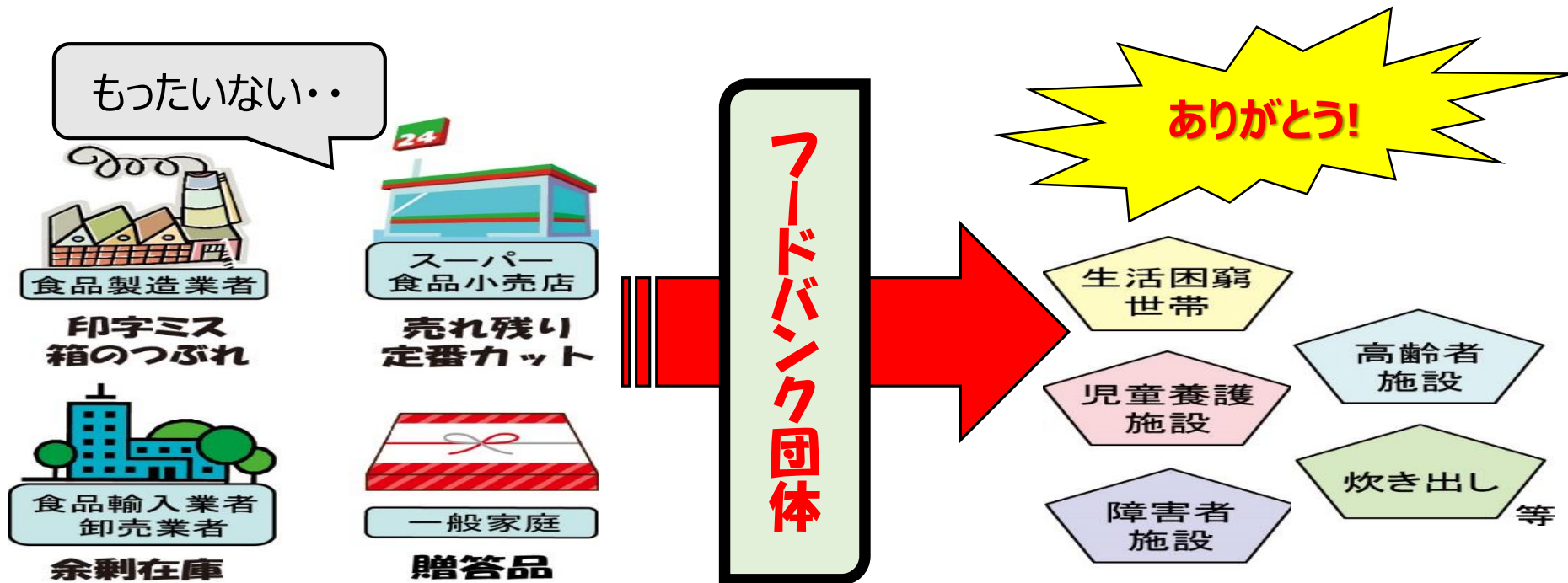
1. フードバンクとSDGs
2. 団体紹介
3. 国内フードバンクの現状と課題
4. 福岡県フードバンク協議会への期待

1. フードバンクとSDGs

「もったいない」を「ありがとう」に。

フードバンクとは……

安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動です。



フードバンクとSDGs

世界と日本における食品ロスの現状

- 世界中で生産された食品の約3分の1が捨てられている。
(重量：年間13億トン、金額：約74兆円分)
- 2015年の国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択。食料の損失・廃棄の削減を目標に設定。

持続可能な開発目標（SDGs）

12.3 2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

フードバンクとSDGsとの関わり

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



フードバンクに関する目標



SDGs（持続的な開発目標）とは・・・

誰一人取り残さないをテーマに地球に住む全ての人々が今よりもより暮らしやすい社会を実現するため、2030年までに経済・社会・環境など様々な課題に、国連に加盟している全ての国が取り組むと決められた世界共通の目標。

日本政府は、SDGs達成に資する優れた取組を行っている企業・団体等をSDGs推進本部として表彰している。

ジャパンSDGsアワード



2. 団体紹介

自己紹介

- 名前：米山広明 （よねやまひろあき）
- 1983年12月25日生まれ、35才
- 山梨県南アルプス市出身
- 愛媛大学理学部を卒業後、2008年のフードバンク山梨設立時よりフードバンク活動に携わる
- フードバンク活動全般、組織基盤強化事業、困窮世帯への生活相談支援、農作業を通じた自立支援等、新規事業の立ち上げや自治体への事業提案を担当
- 2015年11月の全国フードバンク推進協議会設立時より事務局長。新設フードバンク団体の立ち上げ支援や政策提言を行っている

全国フードバンク推進協議会について

全国各地のフードバンク団体の活動支援や、フードバンク団体の新規立ち上げ支援、政策提言活動をおこなうことで、フードバンク活動を普及推進し、食品ロス削減・子どもの貧困問題解決を目指すために2015年11月に設立、2018年2月には一般社団法人格を取得。

ビジョン

フードバンク活動の推進を通して
食品ロス削減、
子供の貧困問題が解決される
社会を目指します。

ミッション

国内フードバンク団体が抱える
課題を共有し、解決を目指します。
フードバンクを取り巻く社会的
環境整備を行い、日本に
フードバンク活動が
根付くよう推進します。

加盟団体一覧



◆東北地方

NPO法人フードバンク岩手
一般社団法人フードバンクあきた
NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
NPO法人ザ・ピープル
フードバンクいのまき

◆関東地方

NPO法人フードバンク茨城
NPO法人フードバンクネット西埼玉
フードバンクちば
NPO法人フードバンク粕江
NPO法人フードバンクTAMA

◆中部地方

NPO法人フードバンクにいがた
認定NPO法人フードバンク山梨
NPO法人NPOホットライン信州
NPO法人POPOLO
フードバンクしばた
NPO法人フードバンク八王子えがお
NPO法人Wish
フードバンク調布

◆近畿地方

フードバンク滋賀
NPO法人セカンドハーベスト京都
NPO法人フードバンク和歌山
フードバンク奈良
フードバンクびわ湖

◆中国・四国地方

フードバンク高知
順正デリシャスフードキッズクラブ
(学校法人 順正学園)
フードバンクとくしま

◆九州地方

NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
社会福祉法人南苑会熊本藤富保育園
(フードバンク熊本)
NPO法人Joyステーション
(フードバンクお助けマン霧島)
NPO法人フードバンク福岡

(全30団体、2019年6月現在、順不同)

全国フードバンク推進協議会について

(1) 政策提言・調査研究

関係省庁に対する関係法案策定に向けた政策提言、またそれにかかる調査研究事業



(2) 広報活動

日本国内のフードバンク活動に対する認知度と信頼性の向上のための周知広報活動



(3) フードバンク団体支援

新設フードバンク団体の立ち上げ支援や、運営ノウハウ共有、研修会の開催



(4) 寄贈食品のマッチング

企業様からの寄贈食品等の窓口となり、フードバンク活動に必要な資源を分配



子供の未来応援マッチングネットワーク推進協議会への参画

国、地方公共団体、民間の企業・団体等によるネットワークを構築するために、「子供の未来応援マッチングネットワーク推進協議会が発足」



全国フードバンク推進協議会はフードバンクの全国組織として参画、支援企業とフードバンク団体とのマッチングの窓口となり、支援に関する調整等を担当。

食品ロス削減推進法の成立 2019年5月24日



食品ロス削減推進法が成立、
同日、議員連盟の所属議員を
招いて記者会見を開催



全国フードドライブキャンペーン 応援メッセージ



女優・石田ひかり さん

女優をはじめとして多岐にわたってご活躍中の石田ひかりさんから、第4回フードドライブキャンペーン（2018.12.1～2019.1.31）に、応援メッセージをいただきました。

おなかをすかせている子どもたち、
お父さん、お母さん、弱い立場に置かれている
全ての人のお役に立てるよう、私も微力ながら
行動したいと思っています！
心はいつも皆さんと共に！

寄贈食品のマッチング

多くの企業・団体より、CSR活動や SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みの一環としてご協力いただいています。

協賛企業



東京エレクトロン テクノロジーソリューションズ

協力企業・団体

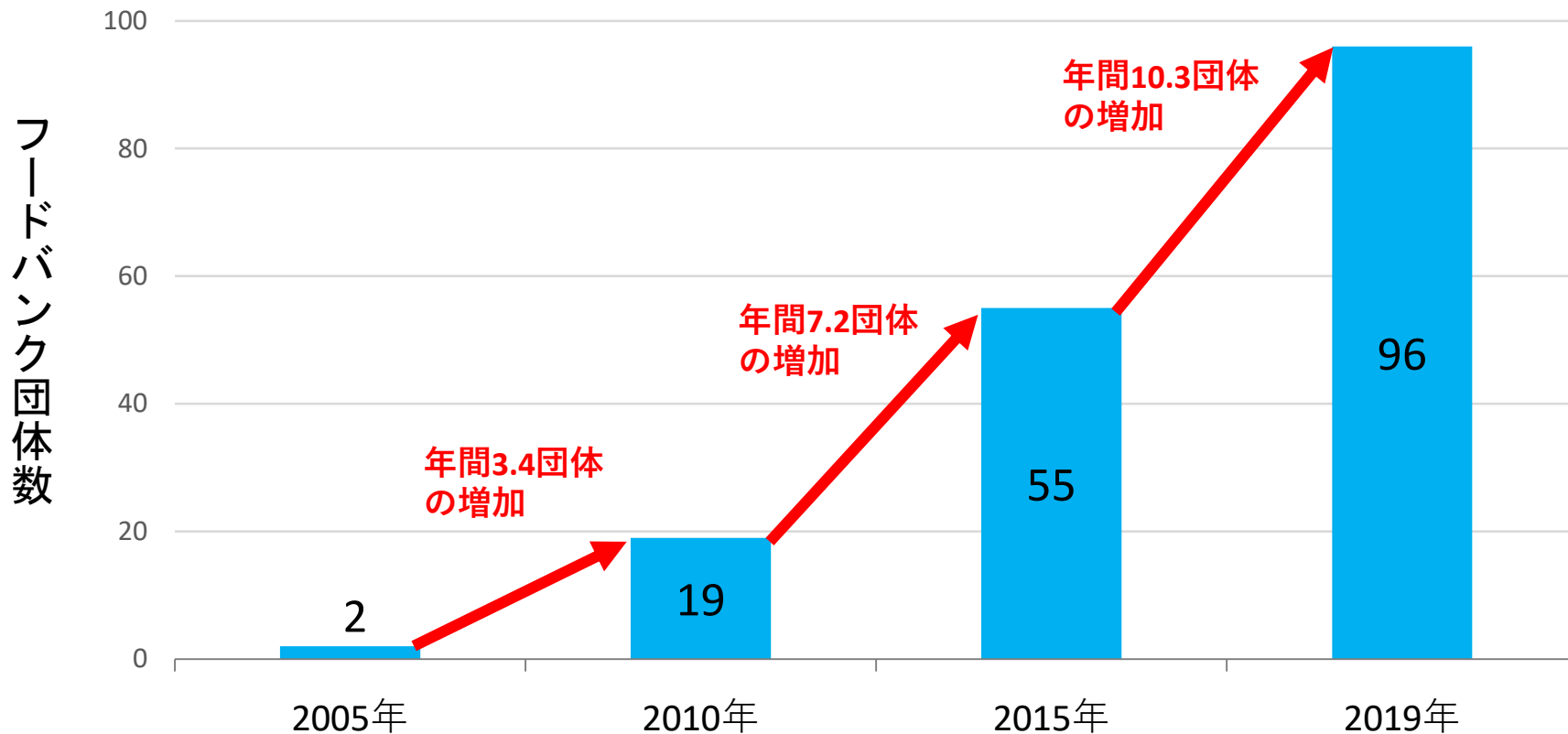


明日をもっとおいしく



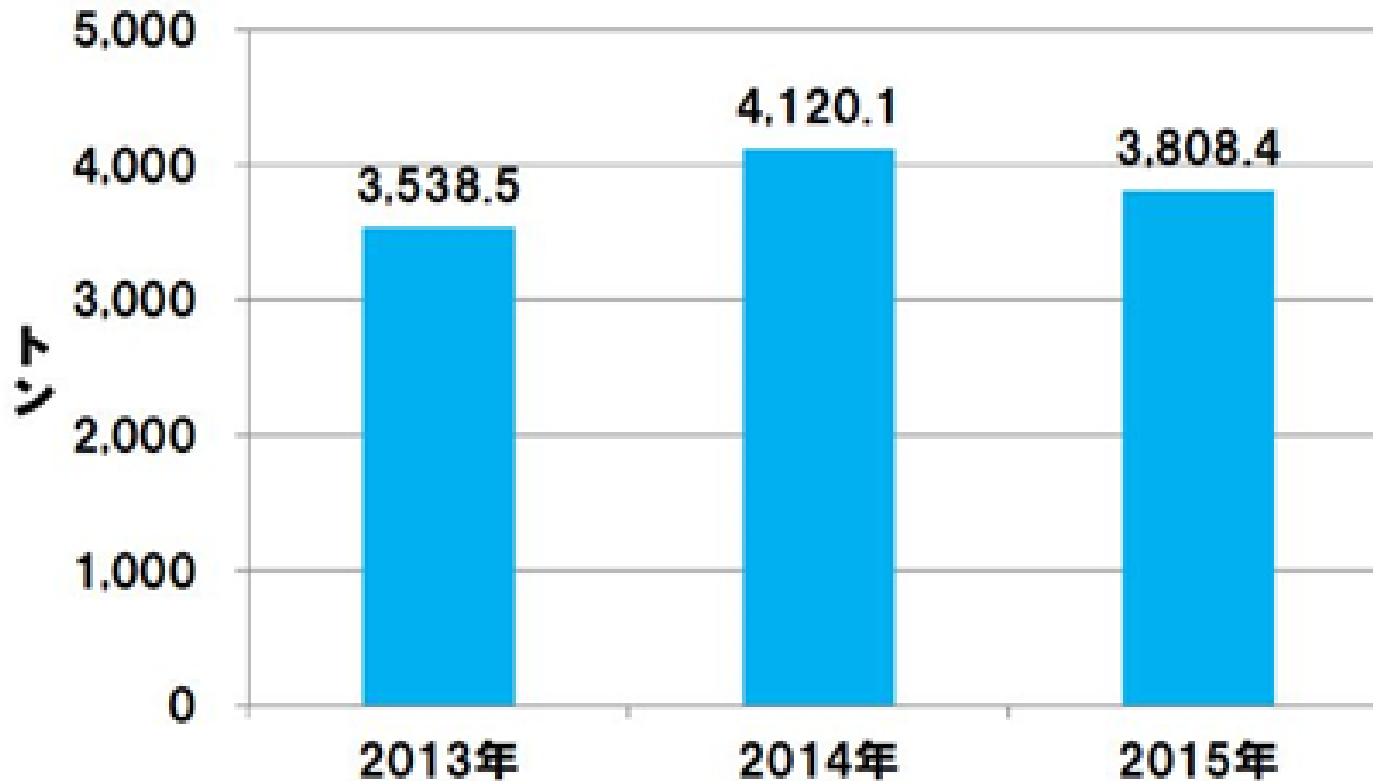
3. 国内フードバンクの現状と課題

国内フードバンク団体数の推移



- ・ フードバンクは日本国内では2000年頃から活動を開始。
- ・ 2019年6月時点で96団体を把握しており、1年間あたりの設立団体数も増加傾向。
- ・ 全ての都道府県で最低1つ以上の団体が活動している。

国内フードバンク団体の食品取扱量の推移



- 食品取扱量は団体数の増加ほど増えていない。
- 生活困窮者自立支援制度による相談窓口の設置、こども食堂の増加（全国3718ヶ所）に伴う支援ニーズの増加に対応出来ていない。
- 直近の4～5年でフードバンク団体の数が倍増しており、全体の取扱量が増加していないため、1団体あたりの取扱量は減少している。

全国協議会の行う食品寄贈のマッチングについて

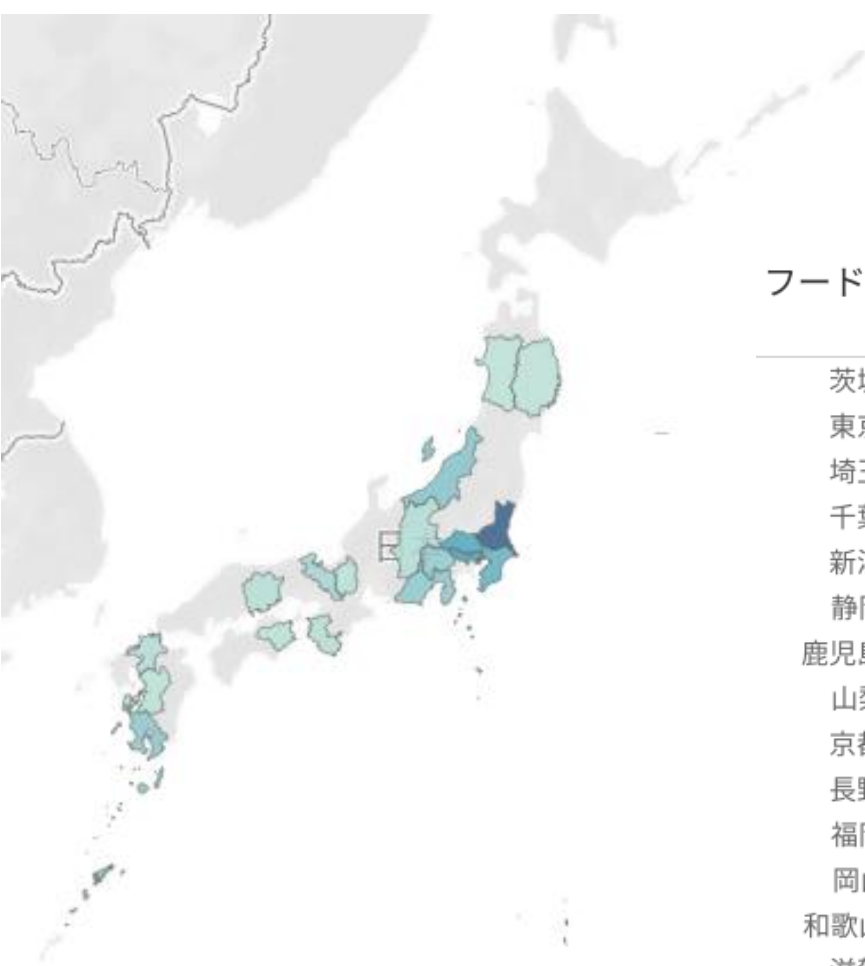
(1) 実施回数（2018年4月～2019年3月）

- ・ 食品提供回数（延べ31社）
- ・ 全国のフードバンク団体、延べ231団体

(2) 課題

- ・ 全国フードバンク推進協議会と加盟フードバンク団体、加盟団体とフードバンクと施設・団体（子ども食堂等）とのマッチングの調整、食品の保管、分配を行う人員が不足しており、増加するニーズに追いついていない。
- ・ 地理的な問題

加盟フードバンク団体への寄贈実績



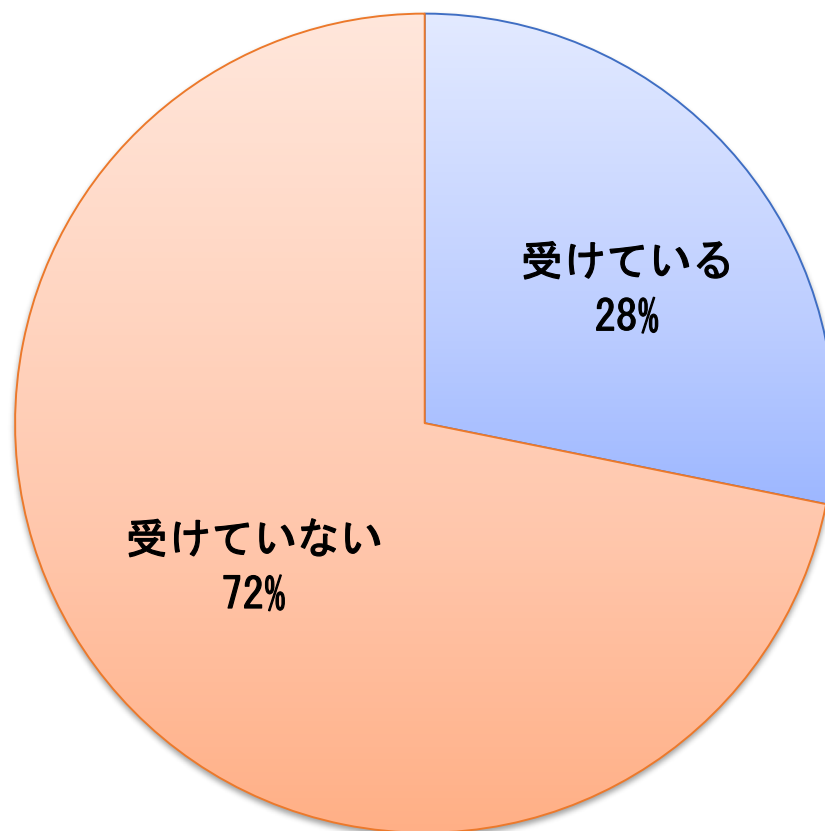
フードバンクへの寄贈実績（ケース/箱）

	2017	2018
茨城	418	1,545
東京	462	600
埼玉	342	626
千葉	570	248
新潟	248	241
静岡	322	108
鹿児島	145	273
山梨	321	53
京都	27	181
長野	16	92
福岡	51	35
岡山	76	4
和歌山	26	51
滋賀	3	58
徳島	43	3
熊本	36	9
岩手	6	17
秋田	3	

フードバンクと子ども食堂の連携

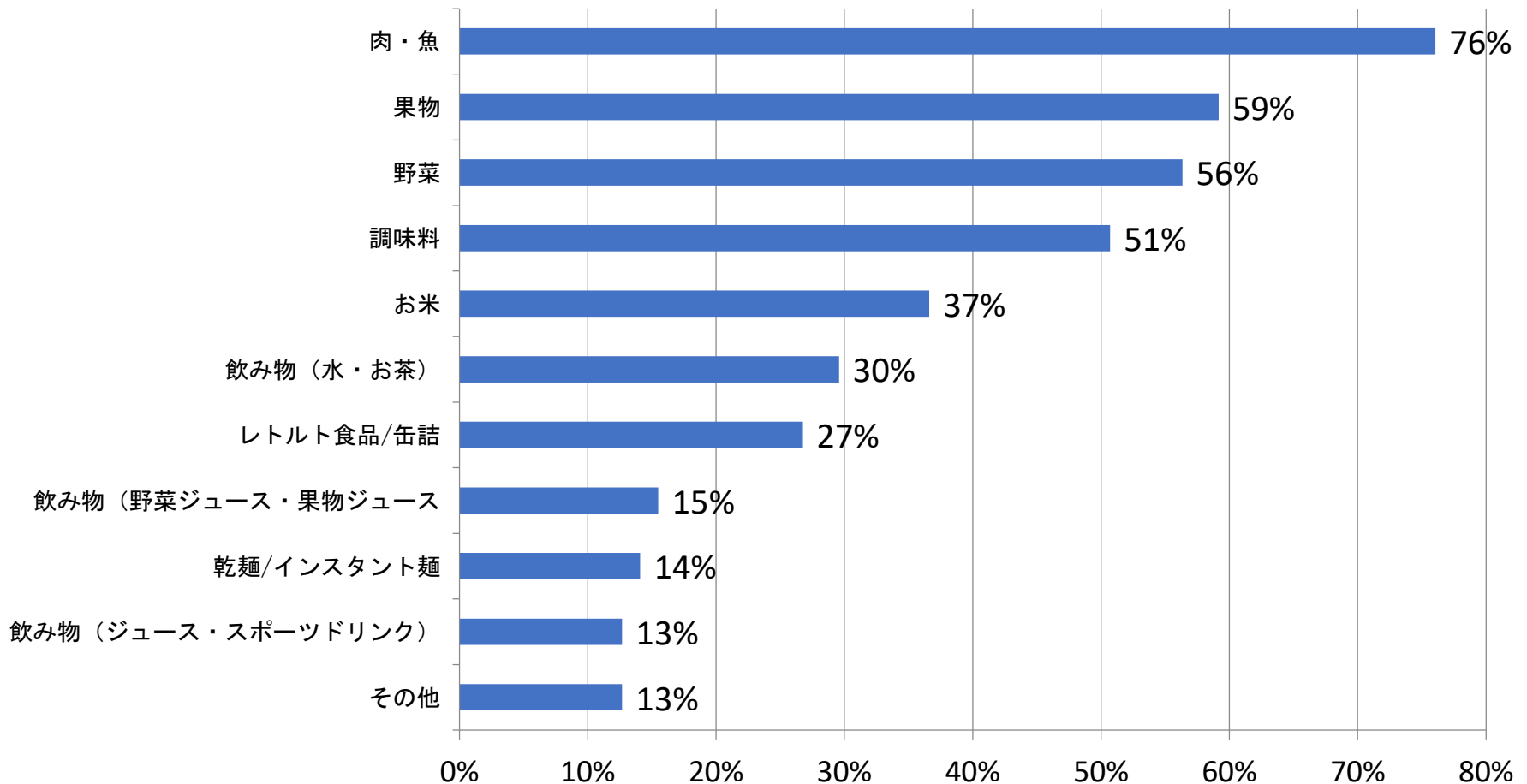
2017年6月に行われた子ども食堂とフードバンク団体との連携会議に
合わせて実施したアンケート調査、71団体の子ども食堂が回答

フードバンクから食材の提供を受けているか？



現在必要としている食材

子ども食堂が必要とするニーズの高い食品は肉、野菜、果物などの生鮮食品。



生鮮食品を取り扱っているフードバンク団体もあるが、取扱量が少ないのが課題。

国内フードバンク団体の共通課題

- ① 寄贈食品の不足
- ② 行政との連携
- ③ インフラ整備（事務所・倉庫・配送用車両等）
- ④ 人手不足
- ⑤ 運営費の確保
- ⑥ ノウハウの不足
- ⑦ 企業からの認知度不足

- 全国の各々の地域で食品を集める力が不足しており、結果として食品の支援を必要とする施設、団体、世帯に十分な食品を提供できていない

4. 福岡県フードバンク協議会への期待

国内フードバンクの将来的な構造

種別	役割
全国フードバンク推進協議会	・ 全国単位の寄付受け入れ ・ 広域FB・地域FBへの寄贈食品の分配
広域フードバンクネットワーク (福岡県フードバンク協議会)	・ 各都道府県単位の食品の受け入れ ・ 地域FBへの寄贈食品のマッチング、分配
地域フードバンク	・ 市、区、町、村単位の寄付食品の受け入れ ・ 最終分配団体への寄贈食品の分配
最終受益者 (施設・団体・個人)	・ 食品提供の受け入れ

- ・ 国内フードバンクの共通課題の解決のために、各地域において広域ネットワークが必要とされている

福岡県フードバンク協議会への期待

(1) 寄贈企業側のメリット

- どの団体に寄贈したら良いか明確
- 大きなロットでの寄贈も可能
- 契約をそれぞれの団体を結ばなくても良い
- 複数の団体との調整コストの負担低減

(2) フードバンク団体側のメリット

- 1団体では受けられない量の食品寄贈が受け入れ可能に
- 寄贈食品、情報やノウハウの共有

(3) 福岡県フードバンク協議会への期待

- 食品寄贈側が寄付しやすい仕組み作り、食品やノウハウを共有することによって地域格差を解消、福岡県内全域のフードバンク活動を推進
- 全国的な先進事例として、他の自治体で導入できるモデルの形成

国内フードバンク活動の課題

- (1) 行政との連携
- (2) 寄贈食品の不足
- (3) インフラ面の不足、財源の不足

法律の成立により、課題の解決に期待できることは？

未利用食品等を提供するための活動の支援等

- 1 国及び地方公共団体は、食品関連事業者その他の者から未利用食品等まだ食べることができる食品の提供を受けて貧困、災害等により必要な食べ物を十分に入手することができない者にこれを提供するための活動が円滑に行われるよう、当該活動に係る**関係者相互の連携の強化等を図るために必要な施策を講ずるもの**とすること。
- 2 1に定めるもののほか、国及び地方公共団体は、**民間の団体が行う1の活動を支援するために必要な施策を講ずるもの**とすること。
- 3 国は、1の活動のための食品の提供等に伴って生ずる責任の在り方に関する調査及び検討を行うよう努めるものとする。

行政のフードバンクへの関わり(例)

- ① 都道府県食品ロス削減推進計画及び市町村食品ロス削減推進計画に、フードバンクによる食品ロス削減を入れる
- ② 行政から企業への支援要請を依頼
- ③ フードバンクへの補助・事業委託(京都市、東京都の取り組み)
- ④ 防災備蓄食品の提供
- ⑤ 遊休施設の無償貸与
- ⑥ 食のセーフティネット事業での福祉分野での連携(福祉課、教育委員会、保育園・小・中・高校等)
- ⑦ フードドライブの協力依頼(拠点・広報)